



Sun StorEdge™ 3000 Family バージョン 2.1 ソフトウェア補足資料

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-4273-10
2005 年 11 月、改訂第 A 版

このマニュアルに関するコメントの送付先：<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright © 2005 Dot Hill Systems Corporation and others. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および Dot Hill Systems Corporation は、本製品または文書に含まれる技術に関する知的所有権を所有していることがあります。特に、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に記載される米国特許権が1つ以上、あるいは、米国およびその他の国における追加特許権または申請中特許権が1つ以上、制限なく含まれている場合があります。

本製品または文書は、その使用、複製配布、およびデコンパイルを制限するライセンスの下に配布されます。Sun およびそのライセンサー (該当する場合) からの書面による事前の許可なく、いかなる手段や形態においても、本製品または文書の全部または一部を複製することを禁じます。

サードパーティソフトウェアは、Sun のサプライヤより著作権およびライセンスを受けています。

本製品の一部は Berkeley BSD システムより派生したもので、カリフォルニア大学よりライセンスを受けています。UNIX は、米国およびその他の国における登録商標であり、X/Open Company, Ltd. からの独占ライセンスを受けています。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Sun StorEdge、AnswerBook2、docs.sun.com、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

米国政府の権利 - 商用。政府内ユーザーは、Sun Microsystems, Inc. の標準ライセンス契約、および該当する FAR の条項とその補足条項の対象となります。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性、または権利の非侵害性に関する黙示の保証を含む、すべての明示的または黙示的な条件、表明および保証を否認します。ただし、これらの否認が法令で認められていない場合はこの限りではありません。



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

- 1. 概要 1**
 - 2.1 翻訳版リリース 1
 - マニュアルセット 2
- 2. Sun StorEdge CLI バージョン 2.1 の拡張機能 3**
- 3. Sun StorEdge Configuration Service の説明 11**

概要

本書では、2.1 ソフトウェアの拡張機能の概要および関連する翻訳版マニュアルを示します。

2.1 翻訳版リリース

2.1 翻訳版リリースには、次の更新版が含まれます。

■ 翻訳済みの 2.1 ソフトウェアパッケージ

ソフトウェアのダウンロード手順については、製品 Web サイトで該当するアレイのリリースノートを参照するか、または次の Sun ダウンロードセンターに直接移動してください。

<http://www.sun.com/software/download/>

ソフトウェアは、フランス語、日本語、簡体字中国語、および繁体字中国語に翻訳されています。

■ 『Sun StorEdge 3000 Family 2.1 ソフトウェア補足資料』（本書）

この補足資料には、Sun StorEdge 3000 Family Configuration Service 2.1 および Sun StorEdge CLI 2.1 で提供されているバージョン 2.1 ソフトウェアの拡張機能の概要が示されています。この情報は、2005 年 7 月にリリースされた翻訳版 2.0 ソフトウェアのユーザーマニュアルの更新版です。

注 – 2.1 ソフトウェアは、すべての Sun StorEdge 3000 Family アレイで使用できます。ただし、2.1 のすべての機能および拡張機能を使用するには、Sun StorEdge 3000 Family RAID コントローラに 4.1x ファームウェアがインストールされている必要があります。

■ 新しく翻訳された Sun StorEdge 3320 SCSI Array マニュアルは、次の場所にあります。

[http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/
Network_Storage_Solutions/Workgroup/3320](http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Network_Storage_Solutions/Workgroup/3320)

または

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/3320SCSIarray>

マニュアルは、フランス語、日本語、簡体字中国語、繁体字中国語、および韓国語に翻訳されています。

マニュアルセット

翻訳版マニュアルセットの一覧を次に示します。

表 1-1 Sun StorEdge 3000 Family の翻訳版マニュアル

タイトル	Part No.
『Sun StorEdge 3000 Family 2.1 ソフトウェア補足資料』	819-4273
『Sun StorEdge 3000 Family Configuration Service 2.0 ユーザーズガイド』*	817-2771
『Sun StorEdge 3000 Family Diagnostic Reporter 2.0 ユーザーズガイド』	817-2774
『Sun StorEdge 3000 Family CLI 2.0 ユーザーズガイド』*	817-6627
『Sun StorEdge 3000 Family 2.0 ソフトウェアインストールガイド』	817-6632
『Sun StorEdge 3000 Family RAID ファームウェア 4.1x ユーザーズガイド』	817-2764
『Sun StorEdge 3120 SCSI Array リリースノート』	817-6636
『Sun StorEdge 3000 Family 導入・運用・サービスマニュアル (3120)』	817-6622
『Sun StorEdge 3310 SCSI Array リリースノート』	816-7942
『Sun StorEdge 3000 Family 導入・運用・サービスマニュアル (3310)』	816-7958
『Sun StorEdge 3000 Family 最適使用法マニュアル (3310)』	817-2989
『Sun StorEdge 3320 SCSI Array リリースノート』	819-1741
『Sun StorEdge 3000 Family 導入・運用・サービスマニュアル (3320)』	819-1704
『Sun StorEdge 3000 Family 最適使用法マニュアル (3320)』	819-1710
『Sun StorEdge 3510 FC Array および Sun StorEdge 3511 SATA Array リリースノート』	817-6638
『Sun StorEdge 3000 Family 導入・運用・サービスマニュアル (3510/3511)』	817-2758
『Sun StorEdge 3000 Family 最適使用法マニュアル (3510/3511)』	817-2761
『Sun StorEdge 3000 Family FRU インストールガイド』	817-2765
『Sun StorEdge 3000 Family 2U アレイ用ラックインストールガイド』	817-2768

* この補足資料には、これらのマニュアルに関する新しい情報が示されています。

Sun StorEdge CLI バージョン 2.1 の 拡張機能

以下のトピックで、Sun StorEdge CLI バージョン 2.1 の拡張機能と使用方法について説明します。

- 新しい `scan disk` コマンド。3 ページの「`scan disk`」を参照してください。
- いくつかのコマンドで追加されたパラメータオプション、値、および出力。
 - 5 ページの「`set logical-volume`」
 - 6 ページの「`map partition`」
 - 8 ページの「`show channels`」
 - 8 ページの「`show events`」
 - 8 ページの「`show frus`」
 - 9 ページの「その他の出力情報」

scan disk

説明

`scan disk` コマンドは、アレイをシャットダウンせずに、ハードドライブをスキャンして使用できるようにします。Sun StorEdge 3000 Family SCSI アレイの電源を入れると、コントローラによって、ドライブチャネルを介して接続されている物理ドライブがすべてスキャンされます。Sun StorEdge 3000 FC アレイおよび SATA アレイとは異なり、Sun StorEdge 3000 Family SCSI アレイの初期化が終了し物理ドライブが接続されても、次のコントローラのリセットまで、新しいドライブはコントローラに自動的に認識されません。この動作の違いは、ファイバチャネルと SCSI のアーキテクチャーやプロトコルの相違によるものです。

構文

```
scan disk [disk-list]
```

引数

表 2-1 scan disk の引数

引数	説明
<i>disk-list</i>	特定のディスクをスキャンします。次のいずれかの形式を使用します。 <i>ch.id</i> 、 <i>ch.idm-n</i> 。 <i>ch</i> は物理デバイスチャネル、 <i>id</i> はデバイスの SCSI ID、 <i>m-n</i> は同じチャネル上の連続した ID 範囲を表します。例、2.0、2.3、または 2.2-5。

例

次の例では、ディスク 2 をスキャンします。

```
sccli> scan disk d2.11
```

download nvram、save nvram、upload nvram

保存されている NVRAM ファイルはオペレーティングシステムに依存します。ファイルが保存されているのと同じオペレーティングシステムにファイルをダウンロードする必要があります。たとえば、ファイルが Solaris オペレーティングシステム上に保存されている場合、そのファイルは Solaris オペレーティングシステムからダウンロードする必要があります。

set logical-drive

write-policy 引数のオプションとして **default** の値が追加されました。また、*assignment* 引数が追加されました。

構文

```
set logical-drive {ld-index | ld-id} [write-policy] [assignment]
```

引数

表 2-2 set logical-drive の引数

引数	説明
<i>ld-index</i>	論理ドライブインデックス番号を指定します。例、1d3。
<i>ld-id</i>	論理ドライブ ID を指定します。例、71038221。
<i>write-policy</i>	論理ドライブの書き込みポリシーを設定します。有効な値は、 <code>write-back</code> 、 <code>write-through</code> 、 <code>default</code> です。書き込みポリシーを指定しなかった場合、または <code>default</code> を指定した場合は、コントローラに対して指定された書き込みポリシーが、この論理ドライブで使用されます。コントローラの書き込みポリシーが変更された場合、論理ドライブの書き込みポリシーも自動的に変更されます。コントローラの書き込みポリシーを設定するには、 <code>set cache-parameters</code> コマンドを使用します。
<i>assignment</i>	論理ドライブのコントローラ割り当てを指定します。値を指定しなかった場合、デフォルトでは、論理ドライブはプライマリコントローラに割り当てられます。有効な値は、 <code>primary</code> と <code>secondary</code> です。

set logical-volume

write-policy 引数のオプションとして **default** の値が追加されました。また、*assignment* 引数が追加されました。

構文

```
set logical-volume {lv-index | lv-id} [assignment] [write-policy]
```

引数

表 2-3 set logical-volume の引数

引数	説明
<i>lv-index</i>	論理ボリュームに含まれる特定のドライブを設定します。インデックス番号は、Sun StorEdge CLI から生成されます。番号を確認するには、 <code>show logical-volumes</code> コマンドを使用します。
<i>lv-id</i>	論理ボリュームに含まれる特定のドライブを設定します。ID 番号は、Sun StorEdge CLI から生成されます。番号を確認するには、 <code>show logical-volumes</code> コマンドを使用します。
<i>write-policy</i>	論理ボリュームの書き込みポリシーを設定します。有効な値は、 <code>write-back</code> 、 <code>write-through</code> 、 <code>default</code> です。書き込みポリシーを指定しなかった場合、または <code>default</code> を指定した場合は、コントローラに対して指定された書き込みポリシーが、この論理ボリュームで使用されます。コントローラの書き込みポリシーが変更された場合、論理ボリュームの書き込みポリシーも自動的に変更されます。コントローラの書き込みポリシーを設定するには、 <code>set cache-parameters</code> コマンドを使用します。
<i>assignment</i>	論理ボリュームのコントローラ割り当てを指定します。値を指定しなかった場合、デフォルトでは、論理ボリュームはプライマリコントローラに割り当てられます。有効な値は、 <code>primary</code> 、 <code>secondary</code> です。

map partition

新しい引数 `[read-only | read-write]` `[include | exclude]` `[mask]` `[name]` が追加されました。

構文

パーティションをマップするには、次の構文を使用します。

```
map partition-id channel channel-number target SCSI-id lun lun-number [wwpn | host-id] [read-only | read-write] [include | exclude] [mask] [name]
```

または、次の構文を使用します。

```
map partition-id channel.target.lun [wwpn | host-id] [read-only | read-write] [include | exclude] [mask] [name]
```

引数

表 2-4 map partition の引数

引数	説明
<i>partition ID</i>	XXXXXXXX-PP 形式で LD-ID/LV-ID と partition-number の組み合わせを指定します。XXXXXXXX は、Logical Drive/Volume ID、または ld{X}/lv{X}-PP 形式の LD/LV Index とパーティション番号の組み合わせを表します。LD/LV Index は、論理ドライブ / ボリュームのインデックス番号です。PP は、パーティション番号を表す 2 桁の 16 進数です。論理ドライブの有効なパーティション ID は、たとえば、3C2B1111-01 や 1d2-03 などです。論理ボリュームの有効なパーティション ID は、たとえば、205FB9AC-01 や 1v2-03 などです。
channel <i>ch</i>	0 ～ 7 のホストチャネル番号を指定します。
target <i>target</i>	0 ～ 126 のホストチャネルターゲット番号を指定します。
lun <i>lun</i>	ホストチャネルの LUN 番号を指定します。
<i>channel.target.lun</i>	マップするチャネル、ターゲット、および LUN を指定します。たとえば、4.1.2 は、物理チャネル 4、ターゲット ID 1、論理ユニット番号 2 を表します。
<i>wwpn</i>	<i>Sun StorEdge 3000 Family FC</i> および SATA デバイスのみ。ホストバスアダプタにマップする WWPN (WorldWide Port Name) を指定します。利用可能な WWPN 値を確認するには、show port-wwn コマンドを実行します。
<i>host-id</i>	ホストバスアダプタにマップするための、対応する WWPN のホスト ID を指定します。利用可能な WWPN 値を確認するには、show port-wwn コマンドを実行します。
[read-only read-write]	<i>Sun StorEdge 3000 Family FC</i> および SATA デバイスのみ。読み取り専用または読み取り / 書き込みの特権を割り当てるアクセスモードを指定するには、read-only または read-write を入力します。
[include exclude]	<i>Sun StorEdge 3000 Family FC</i> および SATA デバイスのみ。WWN と WWN マスクで表されるホストに LUN へのアクセスを許可する場合は、include を指定します。ホスト LUN アクセスを禁止する場合は、exclude を入力します。include の指定によって、選択された LUN へのアクセスが許可されたホストが存在しない場合は、すべてのホストがこの LUN にアクセスできます。任意のホストに LUN へのアクセスを許可した場合、include が指定された、明示的アクセスを持つホストだけがこの LUN にアクセスできます。
<i>mask</i>	<i>Sun StorEdge 3000 Family FC</i> および SATA デバイスのみ。WWN マスクを指定します。LUN アクセスは、WWN と mask で指定されたホストに基づいて許可されます。
<i>name</i>	<i>Sun StorEdge 3000 Family FC</i> および SATA デバイスのみ。フィルタの名前を設定するには、使用する名前を入力します。

次の例では、インデックス番号が 2 の論理ボリュームのパーティション 0 を、ID 112 上のチャンネル 1 の LUN 0 にマップします。アクセス権を読み取り / 書き込みに設定し、すべてのホストがこの LUN にアクセスできるようにするフィルタを追加し、「sabre-2」という名前を付けます。

```
# sccli c2t0d0 map lv2-00 1.112.0 read-write include sabre-2
```

show channels

RCCOM チャンネルが表示されるようになりました。

show events

show events コマンドに、新しい引数 [-v] が追加されました。

構文

```
show events [last {n} | all] [-v]
```

引数

表 2-5 show events の引数

引数	説明
last {n}	コントローラの最新の <i>n</i> 個のイベントを取得します。
latest {n}	コントローラの最新の <i>n</i> 個のイベントを取得します。
all	コントローラのすべてのイベントを取得します。
[-v]	4.xx RAID コントローラを使用している場合、-v オプションを指定すると、エラーメッセージの詳細情報が表示されます。3.xx RAID コントローラを使用している場合は、show events コマンドで自動的にエラーメッセージの詳細情報が表示されます。4.xx RAID コントローラを使用している場合にデフォルト (-v オプションなし) を使用すると、エラーメッセージはコントローラからのテキスト文字列がそのまま使用されます。

show frus

show frus コマンドに、新しい引数 [-q] が追加されました。結果から SATA MUX ボード情報除外してデータがすばやく返されるようにするには、-q オプションを使用します。

構文

```
show frus [-q | --quick]
```

引数

表 2-6 show frus の引数

引数	説明
[-q --quick]	データがすばやく返されるように、結果から SATA MUX ボード情報を除外します。

その他の出力情報

表 2-7 CLI 2.1 で使用できる新しい出力情報

show channels	show channels コマンドで、ホストチャンネルとドライブチャンネルに加えて、RCCOM チャンネルの情報も表示されるようになりました。
show configuration	show configuration コマンドで、電圧センサー情報が表示されるようになりました (FC および SATA のみ)。
show enclosure	show enclosure コマンドで、電圧センサーが表示されるようになりました。SATA デバイスでは 16 センサー、FC デバイスでは 12 センサーが表示されます (FC および SATA のみ)。
show lun-maps	show lun-maps コマンドで、マスク情報、アクセス (読み取り / 書き込みの場合は RW、読み取り専用の場合は RO)、タイプ (含める場合は I、除外する場合は E)、および名前が表示されるようになりました (FC および SATA のみ)。
show cache-parameters	show cache-parameters の新しい戻り値 current global write policy (ライトスルーまたはライトバック) が追加されました。

Sun StorEdge Configuration Service の説明

この章では、バージョン 2.0 および 2.1 ソフトウェアに関する追加の説明と注意事項を示します。

- 同じ Sun StorEdge Configuration Service エージェントに最大 10 のクライアントを接続できます。クライアントには、Sun StorEdge Configuration Service コンソールと Sun StorEdge Diagnostic Reporter デーモンが含まれます。
- ストレージ管理は、帯域内ではファイバホスト接続または SCSI 接続を使用して、帯域外では Ethernet ポートから有効にできます。
- 論理ドライブイベントメッセージの多くは LG の文字で始まります。これは、メッセージが適用される論理ドライブ番号を識別する論理グループ (Logical Group) の略記です。
- 「最大のドライブサイズ」には、各ディスクの合計容量が表示されます。この値を小さくすると、作成する論理ドライブを縮小できます。
「最大のドライブサイズ」は変更せずに「パーティションのサイズ」を変更した場合、指定されたパーティションサイズで新しいパーティションが作成されます。論理ドライブサイズの残りの容量は、最後のパーティションに移動されます。「最大のドライブサイズ」を変更した場合、残りの容量は後にドライブを拡張した場合に使用できます。
- Sun StorEdge Enterprise Storage Manager (ESM) Topology Reporter は、同一ネットワークに接続されている任意のマシンから URL を指定すれば参照できます (Slaris ホストマシンでのアカウントが必要)。Netscape Navigator と Internet Explorer に加えて、Mozilla 2.1 (またはそれ以上) での Java Plug-in 1.2 (またはそれ以上) の使用がサポートされています。
- イベントにフィルタを適用して、送信されるイベントメッセージの種類を制限することができます。12 ページの「イベントにフィルタを適用するには」を参照してください。

▼ イベントにフィルタを適用するには

Sun StorEdge Configuration Service では、情報、警告、クリティカルの 3 つの重要度レベルのイベントログエントリが生成されます。ログファイルでは、3 種類ともすべて「エラー」として表示されます。イベント監視をクリティカルイベントのみに制限する場合は、`/etc/init.d/ssagent` ファイルを編集します。

`/etc/init.d/ssagent` を次のように変更します。

1. `_start`) の行のあとに、次の 2 行を追加します。

```
SSCS_SUPPORT_MESSAGELEVELS=1
export SSCS_SUPPORT_MESSAGELEVELS
```

2. Sun StorEdge Configuration Service エージェントを停止して再起動します。

```
# /etc/init.d/ssagent stop
# /etc/init.d/ssagent start
```